

査読マニュアル

本誌の査読にご協力いただきありがとうございます。本誌では公正・公平かつ科学的な査読を迅速に行うために以下のような査読要領を設けました。投稿規程とあわせ本査読マニュアルに沿った査読をお願い申し上げます。

未発表論文の内容を、利害関係のある他者に伝えることは、情報の漏洩に相当する違反行為です。守秘義務を厳守して下さい。違反した場合には Journal of Cancer Supportive Care 編集委員会の内規に従い、処分をする場合がございます。

また、論文の著者、内容に利益相反がある場合には、公正な査読ができないため、査読を辞退して頂くようお願い申し上げます。

- ・ 査読マニュアル（本マニュアル）
- ・ [査読体制](#)

1. 編集方針

投稿規程では以下のように編集方針を規定しております。「Journal of Cancer Supportive Care（がんサポートィブケア）学会誌は日本がんサポートィブケア学会(JASCC)の機関誌として、がん患者への支持医療に関する基礎的・臨床的研究を発表するものである。本誌の論文内容は、他誌に発表されていない新しい知見に基づき、多数の読者に対して寄与するものと認められたものに限られる。」

2. 全体的な査読方針

本誌の査読のポイントはがんサポートィブケアにおける当該研究の「重要性」「内容の妥当性」「有用性」です。

投稿者の立場に立ち投稿者が対応に困るような曖昧な査読コメントではなく、投稿者がしっかり納得ができ修正可能な具体的指摘を含んだ説明と査読コメントをお願いします。査読者は投稿者に対して教育的見地から投稿者が修正可能であり、指摘事項の根拠を明確にし、投稿者が納得できるような査読をしてください。

出来る限り初回の投稿で「当該論文は指摘事項に則った修正が行われれば掲載可能であるか」を判断してください。何度も修正した後に不採択とすることは出来るだけ避けてください。実際には修正後に研究の不十分な点が明確になり当初とは違った判断をすることがあります。これは仕方がないことであり、初回の査読が絶対という意味ではございません。論文が不十分で修正しても受理が難しいかもしれないと判断される場合には、「不採択」を選択してください。その場合、採択できない理由を明確にコメントしてください。

出来るだけ初回の査読で論文の不十分な点は全てご指摘ください。2回目以降の査読は初回

の査読で修正されていない点、修正が不十分な点を中心に査読し、全く別の新たな修正点を要求することは修正投稿で新たな問題が出てきた場合を除き出来るだけ避けてください。論文の日本語表現は、科学論文として誤解なく意味が通じていれば、表現自体をあまり細かく修正する必要はございません。科学的な曖昧さの除去は重要ですが、細かな語句の表現より、全体としての論文の「重要性」「内容の妥当性」「有用性」を重視してください。本誌の編集者が査読者に期待することは、論文採択に関する専門的な助言です。従いまして査読者は論文採択に関する意見を求められますが、最終的な判断は編集者、編集長が対応します。

「修正すれば採択可能」「修正後に再審査」と論文の対応を決定後、改訂論文が投稿後に、編集者が査読者のコメントに十分対応していると判断したときには、再査読を依頼せずに論文を採択することもあります。編集者が、査読者のコメントへの対応が十分であるかを判断できない場合には、再査読をお願いいたします。

編集委員会の総意で、著者は編集者、査読者が分かりません。また、査読者も、編集者、著者が分かりません。

3. 査読の方法

全体的な査読結果は以下から選択してください。

●このまま掲載可

修正なしで採択してよい場合に選択してください。

●修正すれば採択可能（再査読不要、編集部で修正箇所を確認）

投稿された論文を採択することを前提として若干の記載の追加、語句や文章の変更が必要な場合に選択してください。

●修正後に再審査

大幅な修正が必要な場合に選択してください。緒言の不備、方法の明確化、解析の追加・修正、結果の解釈の変更、考察の変更、結論の変更などが該当します。

●不採択

投稿された論文は修正後にも採択は困難であると判断した場合に選択してください。研究や症例報告に新規性・重要性がない、方法に致命的な欠点があるような場合が該当します。

査読基準

査読基準表に沿って、「適・否」をご記入ください。

著者へのコメントは直接著者に送られることを前提に記入してください。論文の意義や判断に迷う点などは編集委員へのコメントに記入してください。

査読期間

査読期間は2週間とします（2週間経った時点でリマインドを行います）。避けられない要

因で査読期間の延長が必要な場合には編集部にご連絡ください。なお、査読期間を連絡なく大幅に超過した場合には査読依頼を取り消します。全体の査読期間を延長させ、投稿者に不利益がございましたので、不慮の事態で応諾後に査読を断る場合には出来るだけ速やかに編集部までご連絡ください。

倫理的配慮に関する考え方

倫理的配慮は特に重視してください。「疫学研究に関する倫理指針」または「臨床研究に関する倫理指針」の適用範囲である研究に関してはそれに則るだけでなく、原則として倫理委員会の承認を必要とします。また、インフォームド・コンセントなどにつきましては、それぞれの指針に準じた処理がされているかを判断してください。倫理的な判断で迷う場合には編集委員にご相談ください。

個人情報に関する考え方

外科関連学会協議会の「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」に準じることとします。

本指針に準じて特に年齢、性別、経過の日付（年月日）については記載するのであれば、正確に記載すること。（例; 60 歳代 × → 64 歳 ○、201X 年 Y 月 × → 2014 年 7 月 ○）

公平性の担保に関する考え方

査読を割り当てられた論文が共著者や謝辞に名前がなくても、何らかのアドバイスや指導を行うなど、自らが公平に査読を行える立場ではないと考えられる場合には、査読を辞退してください。

- ①内容から見て適切な査読が可能か
- ②査読者自身が当該論文に直接関係していないか
- ③公平・中立に審査できるか注 1)
- ④査読期間内に査読が可能か

※ 注 1): 研究に対する自らの見解にバイアスを生じかねない利益相反がないかを検討します。利益相反には経済的関係以外に、学術的関係、人間関係、政治上あるいは宗教上の信条、所属組織との関わりなどが含まれます。

抄録や図表などの英文の修正について

和文箇所の修正と同様の箇所の英文の修正が必要な場合は、それを逐一、修正するコメントをする必要はございません。ただし、最終的な採択の決定時には英文箇所が和文に応じて修正されていることを確認してください。なお、投稿者に英文校正の証明書の添付は義務付けておりませんが、必要であれば提出するようにコメントをしていただいても結構です。